

学校名：兵庫県立小野高等学校

学年：1年

名前：宮本 理紗子

題名：身近な社会問題と税金の関係性

世界には飢えに苦しんでいる人が最大八億二千八百万人いる一方で、作られた食糧の三分の一が捨てられていることを知っているだろうか。FAO（国際連合食糧農業機関）によると、世界で毎年廃棄される食品は約十三億トン。国内では、最新の統計で年間五百七十万トンの食品ロスが発生している。毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てていることとなる。五百七十万トンという量は、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食糧支援量四百二十万トンを大きく上回っている。食品ロスはスーパーや飲食店などの事業を伴って活動する事業系食品ロスと、家庭から出る家庭系食品ロスがある。事業系食品ロスの方が多いイメージがあるが、実は家庭食品ロスも約四十七%と半分近い割合を占めている。

食品ロスをすることでゴミの廃棄により環境破壊につながるというのは知っていると思う。しかし、それ以上に問題があることを知ってほしい。それは、捨てられた食品を廃棄するための費用にすべて「税金」が使われているのだ。環境省の調査によれば二〇一九年度の一般廃棄物の処理事業経費は、二兆八百八十五億円に上った。自治体のデータなどを基に処理費用全体に占める「食べ物ゴミ」の割合を四十%と推計しており、年間約八千億円もの税金が販売店の売れ残りも含めた食品ロスの後始末に使われている。決して無視できる金額ではない。ゴミを廃棄するのに税金を使うのは、いわゆる税金の無駄遣いをしているのではないだろうか。納税者の視点から食品ロスについて考えてみると、自分が納税したお金が食品の廃棄に使われるのは嫌な気分だ。私はこの税金の無駄遣いを解消するために自分にできることは何かを考えた。例えば、家族が買い物に行く際、「冷蔵庫の中身確認した？食べ切れないほどの食品は買わないようにね。」と呼びかけた。また、買い物に行った際、食品は前から取り賞味期限の近いものを買うように心がける。最近では、フードドライブが行われていて、食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動のことだ。未開封のものなど条件はあるが、家に残っている食品を捨てずに寄付することができる。

このように身近な社会問題と税金の関係性を納税者が考えることで、税金への関心や社会問題を解決しようという意識につながり、SDGSの観点からも食品ロスを軽減できる。税の作文を書くことによって食品ロスを減らしたいと思うようになったし、納税者が納めた税金を使う大切さを知ることができた。税の作文は、自分の意識を変えるきっかけにもなり、税の意義を知れる良い機会だ。この作文を読んだ人が一人でも税金の“無駄遣い”をしないために行動し、世界には食糧が無く飢えに苦しんでいる人がたくさんいることを心に留めておいてほしい。